

4
2024

一人の子どもや若者も取り残さない社会をつくるさいたまユースマガジン

TSUNAGARU

009 - つながる -

- さいたまユースが認定NPOに
- たまり場



ひと夏の

PICK UP

認定NPO法人になりました

税制優遇が可能に

さいたまユースへのご寄付には、所得税・相続税（遺贈）・法人税の税制上の優遇措置があります。個人の方にも、ふるさと納税と同様に寄附金控除の対象となり、確定申告で所得税・住民税控除が可能です。法人には、一般損金算入限度額に加えて、特別損金算入限度額の枠も活用できます。

個人の方からのご寄附について

個人の方からのご寄附は寄附控除等の対象となります。所得税の控除について『税制控除』と『所得税控除』のどちらか有利な方を選択出来ます。

一 所得税の計算式

税額控除（寄附金特別控除）

$$(\text{寄付金合計額} - 2,000) \times 40\%$$

※年間所得の40%の寄附が控除の限度額となります。
※所得税額の25%を限度とした控除が認められます。

又は、

所得控除（寄附金控除）

$$(\text{寄付金合計額} - 2,000\text{円}) \times \text{所得税率} = \text{減税額（所得税分）}$$

※年間所得の40%が限度額となります。
※税額控除上限：減税額は所得税額の25%が限度となります。
※税額控除・所得控除の共通上限：年間寄附金合計額は、年間の総所得金額の40%が限度となります。

法人からのご寄附について

ご寄附いただいた金額は、一般枠と特別枠の合計金額で損金算入が出来ます。

ある企業の場合（資本金等500万円・所得金額5,000万円）

$$\text{一般枠} (\text{資本金等} \times 0.25\% + \text{所得金額} \times 2.5\% \div 4)$$

343,750円

+

$$\text{特別枠} (\text{資本金等} \times 0.375\% + \text{所得金額} \times 6.25\% \div 2)$$

1,571,875円

損金算入可能な額

1,915,625円

遺贈・相続財産に夜ご寄附について

遺贈または相続により財産を取得した方が、その取得財産等を相続税の申告期限内にご寄附いただいた場合は、一部を除き、寄附金額には相続税が課税されません。



詳しくは、国税庁のホームページをご確認下さい。
左のQRコードからご確認いただけます。

一 個人住民税の計算式（税額控除のみ）

$$(\text{年間寄附合計金額} - 2,000\text{円}) \times \text{最大}10\% = \text{減税額（個人住民税分）}$$

※政令市にお住まいの方…都道府県指定分：2%+政令指定分8%=合計最大10%
※年間寄附金合計額は、年間の総所得金額等の30%が限度となります。



詳しくは、国税庁のホームページをご確認下さい。
左のQRコードからご確認いただけます。



詳しくは、国税庁のホームページをご確認下さい。
左のQRコードからご確認いただけます。

貧困・孤立した子どもたちの活動にご支援を

地域の中には、家庭や学校で十分な社会体験ができない子どもや若者たちが多くいます。さまざまな体験を積み重ね、社会とつながっていけるよう、子どもたちの季節のイベントやスポーツや音楽などの芸術体験、地域とつながるイベント開催をしています。こうした取り組みを今後も継続していくため、ぜひご支援をお願いいたします。



「はたらく」体験へのご支援

さまざまな課題を抱えながらも公的支援を受けられない若者たちの「はたらく」体験へのご支援をお願いいたします。

過去の不登校やひきこもり経験のほか、発達障害、精神疾患、メンタル不調等に悩む若者など、一般就労では社会に踏み出すことが難しく、生きづらさを抱え、働くことが困難な若者たちに対し、各種相談、グループでのワークショップ、農業体験、パソコンスキルのプログラム、面接練習、職業体験会、会社見学、面接の練習など、自立への支援をおこなっています。

自治会の協力を得て地域清掃に取り組んだり、就農体験で野菜づくりをしてマルシェで販売したり、最近では、ハイビスカスジャムをつくりカフェで販売したり、できることからチャレンジするプログラムを実施しています。

「社会で働きたい」と思いながらも踏み出せずにいる若者のために、段階的に収入を得ながらステップアップしていけるよう、「はたらく」体験の場をこれからも提供し続けたいと考えています。



体験活動・子ども食堂へのご支援

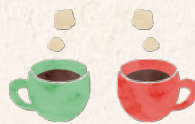
さまざまな要因で文化体験が乏しい子ども・若者たちの体験活動、長期休暇中の遠足やキャンプなど、子どもたちの社会体験や人間関係を広げ、豊かな思い出をつくるための活動へのご支援をお願いいたします。堀咲プロジェクトでご紹介した「ほりさきたまり場」での音楽、ダンス、空手、演劇などの文化体験プログラムの開催は、補助金やみなさまの寄付により継続することができています。また、カフェスペースで開催している子ども食堂「ほりさきコモンズキッチン」、フードパントリーの食材なども、さまざまな企業のみなさまからご提供いただき心より感謝しています。

今後も、子ども・若者たちの体験活動や、子ども食堂やフードパントリーを継続していけるよう、みなさまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



《 応援プログラム 》

あなたのおかげで、
できることがたくさんあります。



たとえコーヒー 1日 1杯分のご寄付でも子どもや若者たちを救えます。

月1,000円

食事を児童3人に1日提供できます。児童に勉強を教えることができます。

月3,000円

食事を児童3人に3日間提供できます。子ども1人に体操着・上ばきなどを提供できます。

月5,000円

食事を児童3人に5日間提供できます。絵具、書道セットなどを提供できます。

貧困、いじめ、不登校、引きこもり、障害、高校中退……生きづらさを抱えた子どもや若者たちがいます。その困難が、「社会の中で見えづらくなっている」そのこと自体が私たちの課題です。

お金だけではなく、物品のご提供でも
子ども・若者支援のチカラとなります。

子ども・若者のために
寄付をする



たまり場

- 今年で13年 -

2011年7月から始まりました「たまり場」の活動は今年で13年目を迎えます。これまでに大勢の方に参加し、共に居場所をつくり、時間を分かち合いました。毎回30名ほど参加し、それぞれ思い思いに過ごしていました。年齢に制限はありませんが、20代のメンバーが中心です。

たまりん

他の人と一緒に遊んだりお話をしたり、時には一人で静かにスマホを見たり本を読んだり絵を描いたり、それぞれが思い思いに過ごしました。買ったボードゲームは総勢30種類以上で、「ゲームを通して知り合えた人が増えた」という感想をもらっています。日常起きたことを誰かに話したい人も多く、おしゃべりをして最後まで過ごすメンバーもいました。

たまりん

学校の課題で分からないところを他のメンバーに聞いて取り組んでいたりと、将棋をしたり本を読んだりと比較的穏やかに過ごしました。一生懸命に勉強をし、見事高校の卒業を果たした方もいました。

普段のたまり場のスケジュール

13:30 開場

14:00 始まりの会

- 1日の流れの確認
 - 連絡事項
 - 自己紹介
- ※名前とお題2個に答える

14:30 たまりん・まなびん

16:00 終わりの会



イベントの開催



国立科学博物館へ遠足

初のバス旅行で、上野の国立科学博物館に行きました。朝から入館し、様々な展示品を個人で見たり、小グループになってみたりとそれぞれの好きなように見て楽しみました。バスでの移動がそもそも 20 年ぶりというメンバーもいたり、誰かと旅行に行くのも初めてというメンバーもいたり、たまり場メンバーとの旅を心から楽しんでいました。



大宮公園や浦和北公園での運動遊び、散策

運動しやすい時期に公園に行って運動遊びをしました。活動でもたまり遊ぶ「モルック」やフリスビーやバドミントンで遊び、1 日通してたまり場の活動を楽しんでいました。



クリスマス会

毎年 12 月下旬にクリスマス会を開催しました。ボードゲームで遊んだり、ビンゴ大会、プレゼント交換会や歌唱などで盛り上がりました。たまり場でのクリスマス会が初めてのクリスマス会だという人もいました。普段はたまり場には行けないけれどもこの日はどうしても行きたいというメンバーもいるほどで、毎年大盛り上がりです。



修了式

毎年度の 3 月にその時に卒業を迎えたメンバーに向けて寄せ書きを贈呈しました。まなびんで一生懸命に学ぶ姿やたまりんで心から楽しんでいたメンバーに向けて色紙を書き、みんなで門出を祝いました。2023 年度はたまり場の開催場所を移転することが決まったので、参加者に「1 年間ありがとうございました」ということで修了証書を渡しました。

たまり場のメンバーの多くが引きこもり状態だったり社会とのつながりがようやくできてきたという人が多いために、集団で何かを楽しむ経験が薄かったり苦手だったりする人が珍しくありません。しかし、『たまり場が安心できる人である』と長い間共に過ごしたことで分かっているからこそ、少し苦手だったとしても「きっとこの人たちと行く場所は楽しいだろう」と期待をし、メンバーが参加できるのではないかと思います。

さて、たまり場は 2024 年 4 月から開催場所を堀崎の事務所に移転します。内容はこれまでとは変えず、引き続き安心・安全な居場所づくりをメンバーと共に創っていきます。引き続きよろしくお願ひします。



「ユースずかん」。よく聞くあのキーワードって、実はよく知らなかったかも？
ユースでの体験談などを交えて、わかりやすく解説します。

ヤングケアラーは

「子どもとしての時間」を引き換えに

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているこどものことです。ヤングケアラーは、本当なら享受できたはずの、勉強に励む時間、部活に打ち込む時間、将来に思いを巡らせる時間、友人とのたわいもない時間といった「子どもとしての時間」と引換えに、家事や家族の世話をしています。(※1)

国の調査では、小学6年生の6.5%、中学2年生の5.7%、通信制高校生の11.0%が「世話をしている家族がいる」と回答しています。(※2)



さいたまユースでの取り組み

2023年度から「赤い羽根福祉基金」の助成を受け、「ヤングケアラーの子ども・若者を地域で発見し、支えるためのネットワークづくり事業」において、地域全体でヤングケアラーを発見し、支援するためのネットワークを構築することを目的に活動しています。

1 連携体制の構築

さいたま市と埼玉県教育委員会と協力し、市内の小中学校や県立高校を訪問し、ヤングケアラー支援の取り組みを広く周知しました。これにより、学校との連携体制を構築し、支援が必要な子どもたちを発見しやすくなりました。

2 生活支援事業

生活困窮者を対象とした既存の事業を通じて、教育機関や地域との連携して、支援が必要な子どもたちへの家庭訪問やヒアリングを行いました。

3 ケース検討会議の開催

民生委員や児童委員、スクールソーシャルワーカー（SSW）など、さまざまな関係者とケース検討会議を開催しました。

4 シンポジウムと交流会の開催

第1年次の総括シンポジウムと交流会を開催し、地域の支援者や関係者約50人が参加しました。

5 出前授業の実施

県立大宮商業高校定時制クラスで出前授業を行い、ヤングケアラー支援の重要性を伝えました。弁護士で元ヤングケアラーの藤木和子さんが講演していただきました。

6 支援対象者

2023年度の活動では、合計19人の支援対象者が実際に支援を受けました。40人のボランティアが延べ360回の支援活動に参加しました。

7 連携機関

行政機関：埼玉県福祉部こども政策課、さいたま市子ども政策課など
教育機関：さいたま市立大砂土東小学校、県立大宮商業高校など
地域団体：見沼区民生委員・児童委員協議会、大和田自治会など

今後の取り組み

「赤い羽根福祉基金」の助成は2024年度も引き続き受けられることになりました。啓発チラシの配布や学校訪問、ヤングケアラーの家庭へのアウトリーチ、交流会や研修会の開催、ネットワーク協議会の運営などの活動を計画しています。これらの活動を通じて、ヤングケアラー支援のためのネットワークづくりを進め、支援対象者の状況を的確に把握し、効果的な支援を提供することを目指します。また、ヤングケアラーが安心して過ごせる居場所を提供し、仲間づくりや自立を支援すると同時に、学校訪問や地域との連携を強化し、ヤングケアラー支援の網を広げていきます。

(※1) ヤングケアラーのこと（こども家庭庁）<https://kodomoshien.cfa.go.jp/young-carer/about/>

(※2) 「ヤングケアラー」を知っていますか？ ヤングケアラーを支える取組と私たちができること（政府広報オンライン）
<https://www.gov-online.go.jp/article/202312/entry-5265.html>

地域とつながる、あなたとつながる。

多文化・多世代のあそび舎てんきりん

～今日本にいる子どもたちは、
みんな、これからの日本を共に創る子どもたち

芳賀洋子

てんきりん代表・地域日本語教育コーディネーター・
多文化社会コーディネーター



第1・第3の土曜日、ユースサポートで「てんきりん多文化クラブ」を開いているあそび舎てんきりんです。昨年度の堀崎マルシェでは、コンゴ民主共和国から来日したばかりの姉妹（16歳と12歳）の歌とアフロダンスを中心に、アフリカ文化全開のステージが出現しました。二人を囲んで、体験参加していた高校生の男子たちの即興的バックダンスも出現。最後には、中国出身のママと韓国出身のスタッフの見事なファシリテートで「しあわせなら手をたたこう！多言語バージョン」で、まさに多様性豊かなステージでした。ご覧になれなかった方、堀崎マルシェや見沼ふれあいフェアでも、こうした多文化・多言語活動を開きますので、是非、いらしてください。

さて、今日は、こうした活動を主催している

「あそび舎てんきりん」について、ご紹介させていただきます。

てんきりんは、浦和駅から東へ2キロほどのところにあって、2005年に始めて以来、外国出身の大人や子ども、地域の人たちが集まって、好きなこと、楽しいことを企画し合い、学び合ってきました。今は、図のような活動があって、どなたでも参加できます。

日本に来たばかりの人も、地域の日本人も、大人も子どもも、一緒に楽しい時間を作り出しています。コロナ後は、対面の活動が復活し、「みんなでごはん！」を作って食べておしゃべりする会も開きました。ここでは、外国出身の人が、自分の国の料理を教えてください。その人の国の言葉や文化が花開き、やさしい日本語と笑顔があふれます。それぞれの人の魅力的なところやいいところ、たくさんの違いが見つかります。こうした活動から生まれた「同じってうれしい！ちがうって楽しい！」という気づき、私たちはこれを多文化共生への合言葉だと思っています。図書館のおはなし会や、小学校のチャレンジスクールなどで、外国出身の人と協働して発信も続けていますし、マルシェのステージ発表にもつながっています。

外国出身の人と「何かを一緒にする」ことから、心地よい対等の関係、多文化共生の街が生まれることを実感してきました。社会の環境は、マジョリティーである私たちの意識が創り出すものです。ですから、私たちこそ、変わっていきましょう！

多文化・多世代のあそび舎「てんきりん」 <わいには、HP (<https://tenkirin.jmdofree.com/>) をご覧ください



おんなじおんなじって うれしいね！ ちよっとちがうって たのしいね！

今日本にいるすべての子どもたちが、日本社会でそれぞれの多様性を活かして活躍できるように、外国出身の人たちと協働して、人と人のつながりを作り出していきたいと思っています。地域のみなさま、よろしくお願いいたします。

地球っ子グループは、親子の日本語教室から始まり、文化庁の日本語教育事業を受託しながら「すべての人がその人らしく活躍できる街」を目指して、活動を広げてきました。てんきりんは、その中の1部門です。日々の活動については、HPをご覧ください。（記2024年4月）



地球っ子グループ



てんきりん

ブレーキいっぱい握りしめて
ゆっくろゆっくろ下ってこ



NPO法人さいたまユースサポートネット
<https://saitamayouthnet.org/>